

## 宇和島市NPO活動調書

団 体 名	トキワバイカ プロジェクト
活 動 内 容	社会教育の推進を図る活動 他
事務局住所	—
電 話 番 号	—
メールアドレス	uwajimangler@gmail.com

### 1. 活 動 内 容

#### 活動内容

- ① トキワバイカツツジの調査、保護、保全活動
- ② 宇和島地方の自然環境の調査、保護、保全活動
- ③ 次世代への自然教育、学術の振興を図る活動
- ④ 自然と人間の共存、共栄からの地域振興を図る活動

### 2. 活 動 実 例

※直近の活動実績及び今後の活動予定等

#### 活動実績

- 2014年4月～2015年1月：トキワバイカツツジに関する情報収集と団体設立のための会員集め
- 2014年5月21日：国有地にあるトキワバイカツツジの状況と認識、保護計画、これまでの経緯等の話を聞きに宇和島森林管理事務所へ
- 2014年5月26日：愛媛県に於けるトキワバイカツツジの現状認識と保全、保護計画、これまでの経緯等の話を聞きに自然保護課へ
- 2014年2月：愛媛南予環境シンポジウムにトキワバイカツツジの説明でパネル展示に参加

#### 年間のスケジュール（平成27～28年）

- 2/11（水）第1回会合。活動団体の設立、メンバー初顔合わせ、活動計画
- 3/12（木）第2回会合。観察会と看板設置に向けての計画
- 4/12（日）第3回会合。観察会と看板（南楽園ツツジ祭11～26日）
- 4/29（水）第4回会合。観察会に向けての現地検討会。
- 5/17（日）第5回会合。観察会の反省会等
- 6/18（木）第6回会合。第1回挿し木等増殖実施
- 7/16（木）第7回会合。にじゅうまるプロジェクトへの参加手続き
- 8/16（日）第8回、9/13（日）第9回、10/15（木）第10回会合。  
ふるさと宇和島応援事業対策。NPO法人に向けて
- 11/5（木）第11回会合。第2回挿し木等増殖実施・NPO法人に向けて
- 12/13（日）第12回会合。NPO法人に向けて
- 1/17（日）第13回会合。1年のまとめ、活動報告、5月に向けて

### 3. 団 体 P R

#### 【トキワバイカツツジと団体設立の説明】

トキワバイカツツジは 1984 年に発見された、世界で宇和島市の極一部の地域にしか自生しない希少価値の高い植物です。新聞報道でこれまで何度か取り上げられておりますが、残念ながら市民、県民の記憶にはあまり残っておらず、一部の業者だけが美しいその容姿と希少性からネット上で6000円～8000円で販売をしています。

トキワバイカツツジは現在、レッドデータブックで愛媛県カテゴリーで絶滅危惧 1A類、環境カテゴリーで絶滅危惧 1B類に選定されています。また、「愛媛県野生動植物の多様性の保全に関する条例」では特定希少野生動植物に指定され、その保護、保全に関しての県、事業者、県民等の責務が明らかにされております。

また、自生地では盗掘、採取の懸念事項の他に、「遷移進行による光条件の悪化や自然災害による生育環境の悪化が懸念される」（引用：愛媛県レッドデータブック 2014）とあり、元々里山で人の手が適度に入り維持されていた環境が放置され、シイの木等に光を遮られ、トキワバイカツツジの生育に影響を与えていると指摘する専門家もいます。

当会は、「生物多様性」「SATOYAMAイニシアティブ」、「世界植物保全戦略」を元にトキワバイカツツジ等の宇和島、愛媛の自然環境を保護しつつ自然と人間並びに人間と人間の共生・共存の思想を育んでいきます。それがわれわれのミッションです。

#### 【活動理念】

「植物を通じて地元 宇和島と愛媛を活気のある場所に」のキャッチフレーズのもと、世界で宇和島にしか自生しないトキワバイカツツジの保護、保全等の活動を通じ、地域の人々とともに宇和島と愛媛を活性化するための活動を行います。

宇和島で色々な方からお話しを聞いていると、「宇和島にはなんにもないんよ」「高齢化がすすんで駄目なんよ」ということを良く耳にします。ただそのなんにもないところには、世界で宇和島にしか自生しないトキワバイカツツジがあります。宇和海の海岸には大木のアコウやハマオモト（ハマユウ）等の南方系の植物や鬼ヶ城山系にはブナ林等があります。また、闘牛や走り込み等という伝統文化があります。海には日振島、沖ノ島、戸島等といった美しい島々があります。街中には雨が降っても傘なしで歩ける商店街があります。年を取られた方々にはその年だけの知識と経験があります。トキワバイカプロジェクトは宇和島にあるものをきちんと保護、保全、活用しながら地元の方々、他県の方々、世界中の方々に宇和島の自然や文化の周知を進めていきます。

21世紀の地球は、豊かな水と緑そして人間の知恵が資源となるはずです。江戸時代の終わり、宇和島藩は僻地に存在していたにも関わらず、人的資源を大事にする藩主 伊達宗城がいたため、薩摩藩 島津斉彬、島津久光と土佐藩 山内容堂、福井藩 松平春嶽と並び四賢侯として知られ、城下町に活気があったそうです。1800年代後半に栄えた街が現代の今、栄えないわけがあるとすればなにがあるのでしょうか？

トキワバイカプロジェクトの役割は、地球上で急速に減りつつある「生物多様性」という大切な資源を次世代に引き継ぐために、生物多様性の保全、里山の保全活動等を通じて自然と人間並びに人間と人間の共生・共存の思想で育んでいく。それが我々のミッションです。